



==== 紀の川市 コンセプトブック ====

住いも 甘いも
紀の川市

CONTENTS

- 3 紀の川市ってどんなところ?
- 5 1年中が収穫期!紀の川フルーツ日和
- 7 子育て
- 8 教育
- 9 紀の川市で暮らす 移住者インタビュー
- 11 1年を通してHAPPYになれるデキゴト
- 12 紀の川市ってこんなところ!
- 13 紀の川市移住へのステップ

住いも♥甘いも 紀の川市

フルーツに囲まれながら、
甘くてみずみずしい生活をしてみませんか?

紀の川市って どんなんところ？



自然を生かした
アクティビティが
充実しているところ！

たま電車



日本の民営鉄道初！
猫駅長がお出迎える
ローカル線があるところ！

和歌山県



フルーツ



新鮮なフルーツや
野菜がいつでも
おいしく食べられるところ！



紀の川市

和歌山県北部に位置する紀の川市は、北は和泉山脈、南は紀伊山地がそびえ、その間を流れる一級河川・紀の川と、市域の南部から紀の川に合流する貴志川の2つの川に沿って平地が広がっています。



粉河寺

身近に歴史を
感じる場所が
あるところ！



1年中が収穫期!

紀の川

フルーツ日和

紀の川市は、豊かな大地と温暖な気候に恵まれているため、1年中様々な種類のフルーツが収穫されます。中でも、桃や柿、キウイなどは、全国有数の生産量とブランド力を誇ります。

旬: 12~3月

はっさく

全国1位の生産量のはっさくは、甘みと苦みのバランスが良いと高い評価を受けています。

旬: 1~4月

キウイ

「熟姫(うれひめ)」「紀の姫(きのひめ)」など、全国的に見ても甘みの強いキウイが味わえます。

旬: 6~8月

もも

桃山地区の「あら川の桃」は、良質な桃のブランドとして全国的にも有名です。



12月~いちご狩り



旬: 1~3月

いちご

貴志川地区ではいちごの生産が多く、いちご狩りが楽しめることでも有名です。



紀の川 ぷるぷる娘

紀の川市特産のフルーツをモチーフにしたキャラクターです。いろいろなイベントで活躍しています。

旬: 7~10月

いちじく

紀の川市のいちじくは甘みが強く、ジャムやケーキなど、様々なスイーツに使用されています。



旬: 9~11月

かき

紀の川柿「黒あま」は、黒い果肉が特徴で、確かな甘さで売り切れ必須のブランド柿です。

PICK UP!

2度おいしい 紀の川フルーツ



紀の川市は、多様な「フルーツの活用法」の産地でもあります。6次産業化にもいち早く取り組み、地元の特産品やグルメとして根付いています。

特産品販売施設

紀の川市には、他にも多くの特産品や販売施設があります。くわしくは紀の川市観光協会ホームページをチェック!



JA紀の里 めっけもん広場



全国トップクラスの売上を誇る直売所。地元の新鮮な野菜やフルーツが安価に手に入ることから、多くの人で賑わっています。

ファーマーズマーケット紀ノ川ふうの丘



旬の野菜やフルーツが手に入るのももちろん、直売所の農産物を使ったカフェも店内にあり、老若男女問わず人気の施設です。



一般社団法人 紀の川フルーツ・ツーリズム

紀の川フルーツ・ツーリズムは、イベントの企画・実施、レシピや商品開発など、紀の川市のフルーツの魅力を発信していくために活動しています。毎年春に行われる「ぷる博」では、フルーツをテーマとした様々な催しや体験でお客様をもてなします。

子育て

豊かな自然に囲まれ、のびのびと子どもを育てることができるよう、様々な支援を通して子育てをサポートしていきます。

総合病院をはじめとする医療施設が96か所

2次救急医療体制を備えた総合病院をはじめ、多くの医療機関が市内にあり、いつでもどこでも安心して医療を受けることができます。

0歳児のお母さんのための赤ちゃん広場

月に1回、赤ちゃんとのふれあい遊びや絵本の読み聞かせなどを行っています。育児相談や友達作りの場にもなっています。



1、2歳児のお母さんは子育て教室

月に1回、手遊びやリズム遊び、外遊び、製作など、年齢に合わせた遊びを提案しています。

子どもの医療費を中学卒業まで助成

市内に在住する15歳までの子どもを対象に、入院にかかる医療費を所得制限なく助成します。



那賀子育て支援センター

大きなすべり台やジャングルジム、たくさんの絵本が揃った名手保育園にある子育て支援センターです。



桃山子育て支援センター

季節に合わせた手作りの飾り付けやボールプールなど、温かみのある安楽川保育園内の子育て支援センターです。



★H30.3～ レイモンド子育て支援センターが開設！



学童保育の充実

市内には10か所の学童保育があり、保護者の就労と子育ての両立を支援しています。

おりひめとひこぼし

河南図書館が「おりひめ」、河北図書館は「ひこぼし」の愛称で親しまれており、市民の生涯学習の拠点となっています。



スクールサポーター

400人以上のサポーターが、地域をあげて子どもたちの安全と安心を見守っています。



安全・安心な教育環境

市内のすべての小・中学校において、校舎の建て替えや耐震改修工事を実施し、普通教室に空調設備を設置しています。



フルーツ給食

市内の小・中学校では、月に1回、紀の川市産の旬の食材を給食で提供しています。近畿初の「食育のまち」として、取り組んでいます。



小学校から大学まで通うことも可能

市内には近畿大学生物理工学部キャンパスがあり、慣れ親しんだ土地で大学教育まで受けることができます。



教育

市内には大学もあり、小学校から大学まで教育を受けることができる環境が整っています。学校、家庭、地域が一丸となって、子どもたちを育てていきます。



菫田 涼子 さん

平成28年8月に大阪から紀の川市へ移住。現在は地域の方々に手伝ってもらいながらリフォームしたカフェを娘さんと営んでいます。



地域の人たちのつながり

お店の裏庭で採れた野菜はお店のモーニングやランチへ。野菜の育て方は地域の方が教えてくれます。



お店から見える景色

お店の向こうに見える自然の景色は、何時間見ても飽きることはありません。

紀の川市で暮らす

移住者インタビュー



こだわりのお店

築80年以上の空き家をほとんど変えずにカフェにリフォーム。看板は拾ってきた流木を組み合わせて作りました。

畑仕事

季節に合わせて、多様な農作業をこなしながら、いろいろな種類のおいしい野菜を出荷しています。



蒲生 信一郎 さん

平成26年6月に、奥さまと娘さんと横浜から紀の川市へ移住。現在は手が回らなくなった畑を借り、農業を営んでいます。

朝は大忙し

娘さんの朝の仕度をし、保育園へ送るところから1日がスタートします。その後休む暇もなく畑へ。



紀の川市での子育て

自然の中で思いっきり遊び、おいしい野菜やフルーツを食べて、心豊かに育ってほしいです。



温かい人と豊かな自然の中で 夢が叶いました

フリーアナウンサーとして多忙な日々を送っていた菫田涼子さん。60歳の誕生日を迎えたときに、今後の人生について考え、「料理を作ったり、人をおもてなしすることが好きだから、どこかの田舎でカフェをし

よう」と思い、1年かけてイメージに合う物件を探し、現在の家と出会いました。「縁側から見える景色に一目惚れしました。それに、紀の川市という言葉の響きが好きなんです」と菫田さん。1年経った今も、引っ越して良かったと思う瞬間ばかりだと話してくれました。今後は、「お世話になった方や地域の方を招いたイベントを開催して、単なるカフェではなく楽しいことがある場所と思ってもらえるようにしたいです」と話してくれました。

子育てをしながらの農業で 毎日が充実しています

娘さんの誕生がきっかけで移住を考えた蒲生信一郎さん。紀の川市は、四季折々の新鮮で豊富な野菜やフルーツが安価で手に入るのも魅力のひとつです。耕作の盛んな紀の川市で、かねてからの夢だった

農業に取り組み、担い手がない畑を借りて、地域の方から教えてもらいながら農業をはじめました。現在はSNSを通じて販売を行うまでに、「地域の方々が常に子どものことを優しく見守って下さるので、のびのびと子育てすることができています。畑の仕事は大変ですが、子どもと関わる時間が多くとれるのも、紀の川市に越えてきて良かったこと」と嬉しそうに話してくれました。

1年を通して
HAPPYになれる

デキゴト

3・4月



ふる博

桃山まつり



4月

紀の川市民まつり



8月

貴志川イルミネーション



12・1月

10月



青洲まつり

10・11月



産業まつり&
食育フェア

文化祭

11月

6月



大賀ハス観蓮会

ホタル観賞

7月



粉河祭

紀の川市ってこんなところ！

紀の川市で暮らす方たちに

「紀の川市ってどんなところ?」「どんな紀の川市にしていきたい?」と聞いてみました!

四季折々の
農作物を作って自給率の
高い紀の川市へ!



自然が豊か!
ビルがないから
空が広い!



おいしいフルーツを
もっとたくさんの人
に食べてほしい!

子どもの医療費など
子育て支援も
充実しています!



食べ物がおいしい!
緑が多くて
空気もおいしい!



健康のための
高齢者レクリエーション
がたくさん!



カフェに行ったり、
お散歩をしたり
楽しみ方いろいろ!



安全で安心して
暮らせる紀の川市を
サポートします!



移住へのステップ

移住するには、いくつかのステップを踏む必要があります。
プロセスは人それぞれですが、ここでは基本となるステップを紹介します。

01

移住の目的を決めましょう

自分や家族が、何のために移住をして、そこでどんな生活を送りたいのか、目的をできるだけ具体的に決めましょう。住む場所や仕事などを検討していく際の判断基準とすることができます。



地域おこしに
貢献したい!

自然の中で
子育てがしたい!

農業を
始めたい!

02

情報を集めましょう

紀の川市の面積は228.21km²。自分の目的に合う地域はどこなのか、情報収集をしましょう。気になることがあれば、ワンストップパーソンに気軽にお問い合わせください。



03

暮らしをイメージしましょう

地域の雰囲気や生活環境の確認のため、実際に訪ねてみましょう。イベントに参加して地域の方と交流するのもおすすめです。

P9~10 移住者インタビューをチェック

ワンストップパーソンって?

和歌山県の全市町村に配置されている、移住に関するあらゆる相談を一手に引き受ける市町村の担当職員です。

04

仕事を考えましょう

「移住したい」という意思が定まったら、仕事を探しましょう。創業や就農をお考えの方もそれぞれ専門の窓口がありますので、まずは相談しましょう。

創業・就農支援を利用しよう!

創業を希望される方には、相談窓口の設置、創業セミナーによる支援を行っています。
新規就農の方へは、農業機械や施設の購入費を補助する支援を行っています。



わかやま空き家バンクを活用しよう!

まず空き家バンク情報利用者登録をします。居住するための改修工事を行った場合、その改修費の一部を補助する制度もあります。



05

住まいを探しましょう

自分の生活にあった住宅を探しましょう。条件に迷ったら目的を見返してみてください。民間の不動産業者のほかにも、空き家バンク制度を活用するのもひとつの方法です。



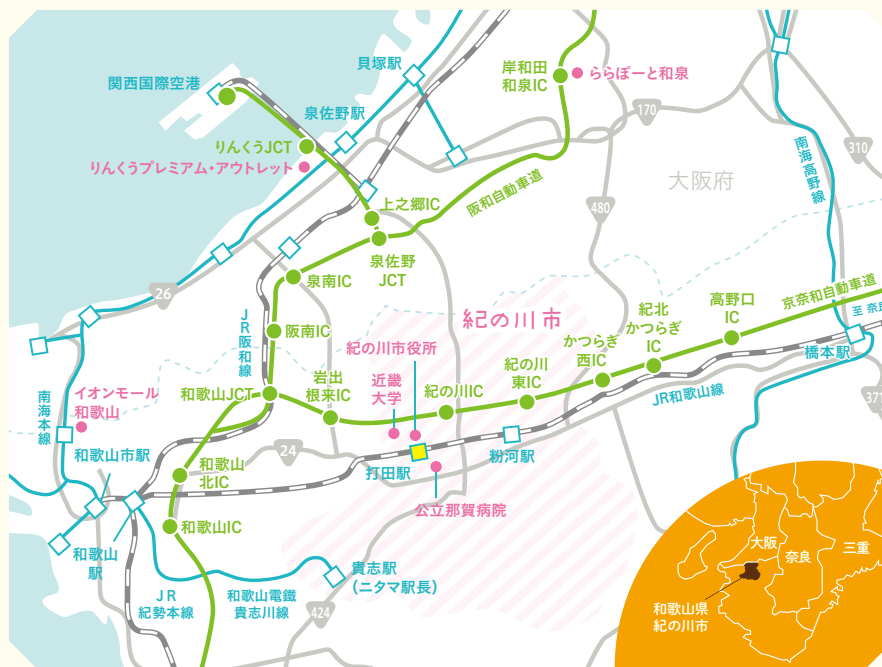
06

甘くてみずみずしい紀の川生活スタート

引っ越しが完了したら、まずは近所や地域の方へ挨拶をしましょう。新しい土地での生活で、何か困ったことがあれば、きっと親身になってくれるはずです。



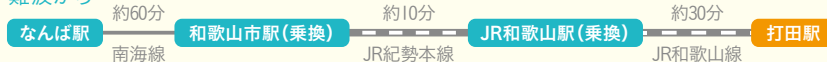
紀の川市へのアクセス



天王寺から



難波から



なんば駅



- <大阪方面から>松原JCTで阪和自動車道、和歌山JCTで京奈和自動車道・紀の川IC(約50分)
- <奈良方面から>京奈和自動車道・橿原高田IC→紀の川IC(約40分)



発行：紀の川市 発行年月：平成30年3月
〒649-6492 和歌山県紀の川市西大井338番地 TEL：0736-77-2511

Webページ：<http://www.city.kinokawa.lg.jp/>

フェイスブック：<https://www.facebook.com/kinokawacity>

制作：株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所



Webページは
こちら



フェイスブックは
こちら